

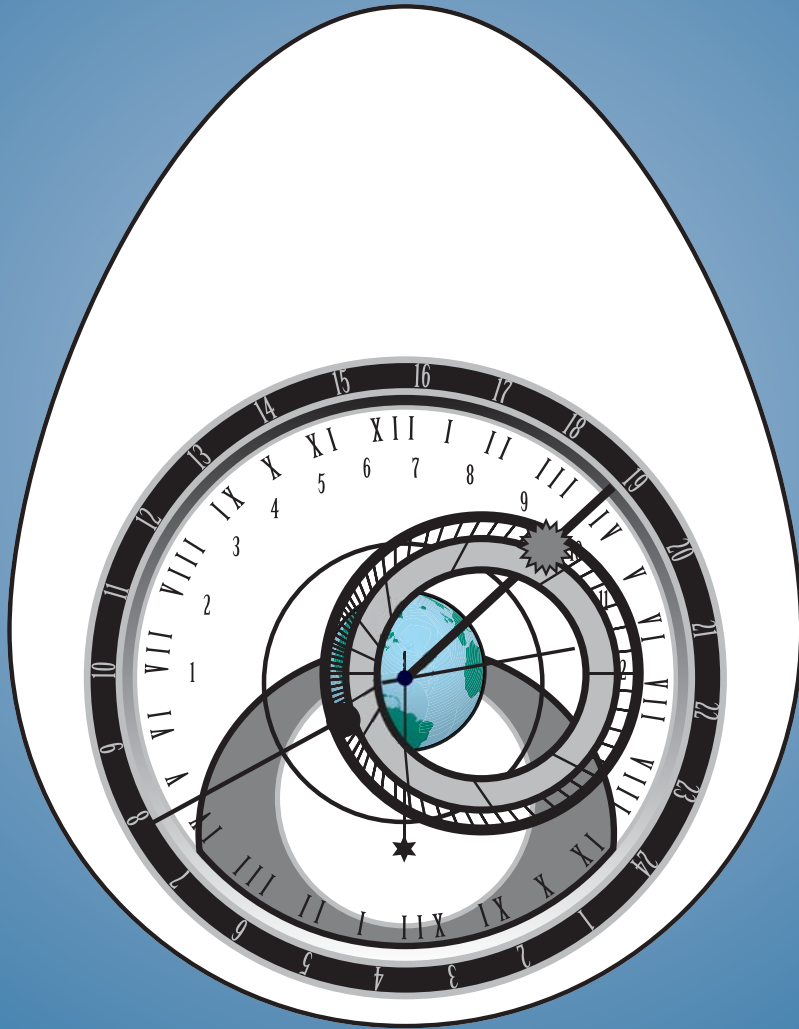


文部科学省 科学技術振興調整費
新興分野人材養成 / イノベーション創出若手研究人材養成

文理融合シンポジウム

「理系」が**未来**を変える！

— 博士人材の社会貢献とキャリアパス —
2009.12.04



【共同主催】

早稲田大学 政治経済学術院 大学院政治学研究科 ジャーナリズムコース

早稲田大学 博士キャリアセンター

プログラム

文理融合シンポジウム

「理系」が未来を変える！－博士人材の社会貢献とキャリアパス

2009年12月4日(金)17:45-20:00

早稲田大学 西早稲田キャンパス(旧大久保キャンパス) 57号館201教室

17:45-17:50 開会挨拶

佐藤 正志 早稲田大学 大学院政治学研究科 研究科長
政治経済学術院 副学術院長
政治経済学術院 教授

17:50-17:55 来賓挨拶

泉 紳一郎 文部科学省 科学技術・学術政策局長

17:55-18:25 基調講演「21世紀の社会と科学－誰が科学を支えるか？」

元村 有希子 毎日新聞 科学環境部 記者

18:25-18:30 休憩

18:30-19:55 パネルディスカッション

<パネリスト>

西村 吉雄 早稲田大学 大学院政治学研究科 MAJESTy 客員教授
元日経エレクトロニクス 編集長

朝日 透 早稲田大学 博士キャリアセンター 副センター長
理工学術院 教授

元村 有希子 毎日新聞 科学環境部 記者

<コーディネータ>

瀬川 至朗 早稲田大学 大学院政治学研究科 ジャーナリズムコース
プログラム・マネージャー
政治経済学術院 教授

19:55-20:00 閉会挨拶

中里 弘道 早稲田大学 博士キャリアセンター 副センター長
理工学術院 教授

20:10-21:10 交流会

早稲田大学 西早稲田キャンパス 63号館 1階カフェテリア

基調講演

元村 有希子
毎日新聞 科学環境部 記者



「21 世紀の社会と科学～誰が科学を支えるか？」

講演概要

科学と社会との間には、思いのほか深い溝がある。

科学や技術が先端化・複雑化すればするほど、社会は不信や警戒感を抱く。便利な現代生活は、その背後にある科学の原理について考えることを不要にした。子どもたちは理科を学ぶことが将来、生きていくうえで役立つとは考えておらず、「不遇な」イメージが根強い理工系への進学を敬遠する傾向も強まっている。

天然資源の少ない日本が、科学技術で生きるほかないことは周知の事実だが、こんな状況で、いったい誰が科学を担うのだろうか？

21 世紀の研究者は、こうした困難な課題を解消する責任を負っている。研究者自身が等身大で社会とコミュニケーションし、社会における科学の存在を有形無形に提示していく必要がある。社会からの批判や質問に真摯に応えていくことは、研究を持続させ発展させるためにも不可欠だ。

研究者コミュニティの内部でも、分野を超えた連携がいつそう求められるだろう。「専門」という名のタコソボにこもっていても、問題の本質を正確にとらえられず、解決の糸口も探し出せない。地球温暖化や生命倫理、エネルギー問題や食品の安全など、21 世紀の地球が直面している複雑な問題に対して解決法を提示するには、専門性と幅広い視野、そしてコミュニケーション力が必要だ。

略歴

元村有希子(もとむら・ゆきこ)1989 年、九州大学教育学部心理学専攻卒業、毎日新聞入社。西部本社報道部などを経て 2001 年から科学環境部記者。日本の科学技術を検証する連載『理系白書』で 06 年、第一回科学ジャーナリスト大賞受賞。07 年から1年間、英国に留学。著書に『理系思考』(毎日新聞社)『理系白書』(講談社文庫、共著)『科学者ってなんだ?』(丸善、共著)など。

パネルディスカッション

パネリスト

西村 吉雄

早稲田大学 大学院政治学研究科 MAJESTy 客員教授
元日経エレクトロニクス 編集長



「社会リテラシーを身につけよ」

メッセージ

「ガクモンなんて自分がスッキリしたいだけの死ぬまでの極道」(上野千鶴子)、この覚悟がないなら博士課程なんかに進むな。心情的には私にはこう言いたい。しかし現在の博士課程／ポスドク問題には、時代の変化と政策の誤りが背景にある。「社会リテラシーを身につけよ。理系に自らを閉じるな。研究者だけに将来を閉じるな。研究者ならざる高度に知的な専門家こそ、いま世界中で求められている」。とりあえずこれを勧めたい。

略歴

1971年、東京工業大学大学院博士課程修了、工学博士。ただちに日経マグロウヒル社(現在の日経BP社)入社。『日経エレクトロニクス』編集長を長くつとめた後、同社の発行人、調査・開発局長、編集委員などを歴任。2002～2003年、東京大学大学院工学系研究科教授。2004～2009年、東京工業大学監事。2005年より現職。

元村 有希子

毎日新聞 科学環境部 記者

「虫の目と鳥の目を併せ持った理系人に！」

朝日 透
早稲田大学 博士キャリアセンター 副センター長
理工学術院 教授



「研究力と社会力を磨け！」

メッセージ

ドクターの学生やポストドクターが夜を日に継いで研究に没頭し、独創性を追及し、高い専門性を武器に専門家集団と激論を交わすことでさらに研究力を磨くことは大事なことです。しかし、研究が社会とどのような繋がりがあるのかを考えたり、その成果を社会へ分かりやすく発信したりすることのできる社会力を研究生活の中で身につけることも重要である。高度な研究力と社会力を併せ持った人材が学界だけでなく、政界、経済界、官界で大いに活躍する時代の到来を期待する！

略歴

1988 年早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了、1990 年同大学理工学部助手、1992 年同研究科博士（理学）取得、2002 年同大学理工学総合研究センター客員助教授、2003 年同大学大学院理工学研究科客員助教授、2004 年科健機構(ASMeW)教授を経て、2007 年より同大学理工学術院教授。2007 年経営学修士を取得し、Super Technology Officer(STO)となる。また 2007 年よりポストドクキャリア副センター長、2008 年より博士キャリア副センター長(兼任)を務める。専門はキラル科学、生物物性科学、磁性薄膜研究。

コーディネータ

瀬川 至朗
早稲田大学 大学院政治学研究科 ジャーナリズムコース
プログラム・マネージャー
政治経済学術院 教授



略歴

瀬川至朗(せがわ・しろう)早稲田大学政治経済学術院教授、大学院政治学研究科ジャーナリズムコース プログラムマネージャー。1977 年東京大学教養学部教養学科卒。毎日新聞社でワシントン特派員、科学環境部長、編集局長、論説委員などを担当した。専門はジャーナリズム研究、地球環境問題、生命倫理。著書に『心臓移植の現場』(新潮社)『健康食品ノート』(岩波新書)、共著に『理系白書』(講談社)など。

主催団体の紹介

大学院政治学研究科 ジャーナリズムコース

概要

早稲田大学大学院政治学研究科は、2008年4月、「修士(ジャーナリズム)」の学位修得のためのプログラムである「ジャーナリズムコース」(定員40名)を新設しました。2010年4月には本コースの博士後期課程(同10名)を設置します。

ジャーナリズムコースは、日本で初めてのジャーナリズム大学院です。ジャーナリストに必要な、①幅広い専門分野(政治、経済、国際、法・社会、文化・スポーツ、科学・技術等)についての専門知識、②ジャーナリズムやメディアの役割に対する深い洞察、③批判的思考力、④プロフェッショナルな取材・表現力、⑤現場主義、という5つの要素を基軸とした高度専門職業人養成の教育プログラムを遂行します。同時に、ジャーナリズムについての専門研究及び研究者養成について、その基盤形成を推進します。

本コースのジャーナリスト大学院としての先進性は、政治学研究科の中にアカデミアとジャーナリズムの真の出会いの場を実現し、プロフェッショナルとして倫理、知識、技術において実践的であるとともに、専門的知識と市民社会の間に相互関係を作り上げる公共的コミュニケーションの担い手として専門性においても卓越したジャーナリストの養成を目指すことにあります。

ジャーナリズムコースは、政治学研究科が2005年度から文部科学省の補助事業として実施してきた「科学技術ジャーナリスト養成プログラム」(MAJESTy)の実績と成果に基づいています。特に科学技術の専門性において卓越したジャーナリストを養成するMAJESTyは、ジャーナリズムコースの総合性・学際性の核をなす独自のプログラムです。2010年度にはジャーナリズムコースに統合し、科学技術ジャーナリズム・プログラムとして、更なる展開を図ります。合わせて、環境ジャーナリズム・プログラムを新設します。

2010年度より開始する博士後期課程ジャーナリズムコースは、ジャーナリズム研究者およびジャーナリスト・エドゥケーターを養成するとともに、高度に専門的なジャーナリストを養成することを目的としています。幅広く複合的な知識の修得を可能とするため、「ジャーナリズム・メディア研究」と「専門分野(政治、国際、経済、社会、文化、科学技術)」の連携にもとづく組織的な研究指導を提供します。

連絡先

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学

早稲田キャンパス3号館 大学院政治学研究科ジャーナリズムコース

TEL : 03-3208-8534

E-mail : gspolit-web-master@list.waseda.jp URL : <http://www.waseda-j.jp/index.html>

早稲田大学 博士キャリアセンター

概要

早稲田大学は、文部科学省の科学技術振興調整費(「イノベーション創出若手研究人材養成」)の支援を受けて、平成 20 年度より「実践的博士人材養成プログラム」を実施しています。

このプログラムでは、早稲田大学が学内外の関連組織と協働することにより、産業分野で活躍できる博士人材(実社会に起点を置き、社会変革を惹起しうる未来技術・モデルを描き、高い専門力を武器に挑戦できる人材＝「実践的博士人材」)を大学として戦略的・組織的に養成し、実社会に数多く輩出することを目指しています。

博士キャリアセンターは、この「実践的博士人材養成プログラム」の中心機関として、プログラムを推進しています。

具体的には、博士後期課程の大学院生や博士号取得後 5 年以内のポスドクを対象として、実社会でリーダーとして活躍するための能力開発プログラム(「実践カリキュラム」)や、実際に国内外の企業・研究機関で、自身の専門性を活かし研究開発や企業実務に参加する長期インターンシップ・プログラム(「実践博士研修」)を実施しています。

実践カリキュラムは、大学院の正規科目として開講され、受講者は実社会で活躍するために必要なコミュニケーション、リーダーシップ、産業政策論、実践英語などを学びます。この講義に参加することにより、博士人材は専門性に加え、実社会で役立つ実務能力や幅広い社会的視野を養うことができます。

実践博士研修では、実践カリキュラムの修了者の中から意欲のある人材を選抜し、国内外の企業や研究機関に最低 3 ヶ月間の長期派遣を行います。その際、博士キャリアセンターに所属するコーディネータが志望者の希望を聞き、各自の個性や専門性に適合し、かつ能力の発揮しやすい企業をマッチングします。

このほか、博士キャリアセンターは若手博士人材と企業との出会いの場を提供するマッチング会や、博士人材のキャリアパスを考えるシンポジウムの開催なども行っています。

博士キャリアセンターは、「実践的博士人材」を養成するさまざまな支援プログラムの企画・運営に取り組み、常に意欲ある博士人材の挑戦を待っています。

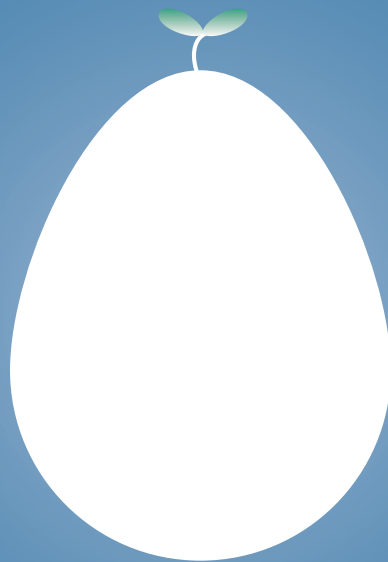
連絡先

〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1 早稲田大学

西早稲田キャンパス(旧大久保キャンパス) 51 号館 9 階 05 室

TEL : 03-5287-6527 FAX : 03-5287-6528

E-mail : info@waseda-pracdoc.jp URL : <http://www.waseda-pracdoc.jp/>



—「理系」が未来を変える！～博士人材の社会貢献とキャリアパス—

2009.12.04

◆早稲田大学 政治経済学術院 大学院政治学研究科 ジャーナリズムコース (J School)◆

169-8050 新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学早稲田キャンパス 3号館
<http://www.waseda-j.jp/index.html>

◆早稲田大学 博士キャリアセンター◆

169-8555 新宿区大久保 3-4-1 早稲田大学西早稲田キャンパス 51号館 9階 05室
<http://www.waseda-pracdoc.jp/>